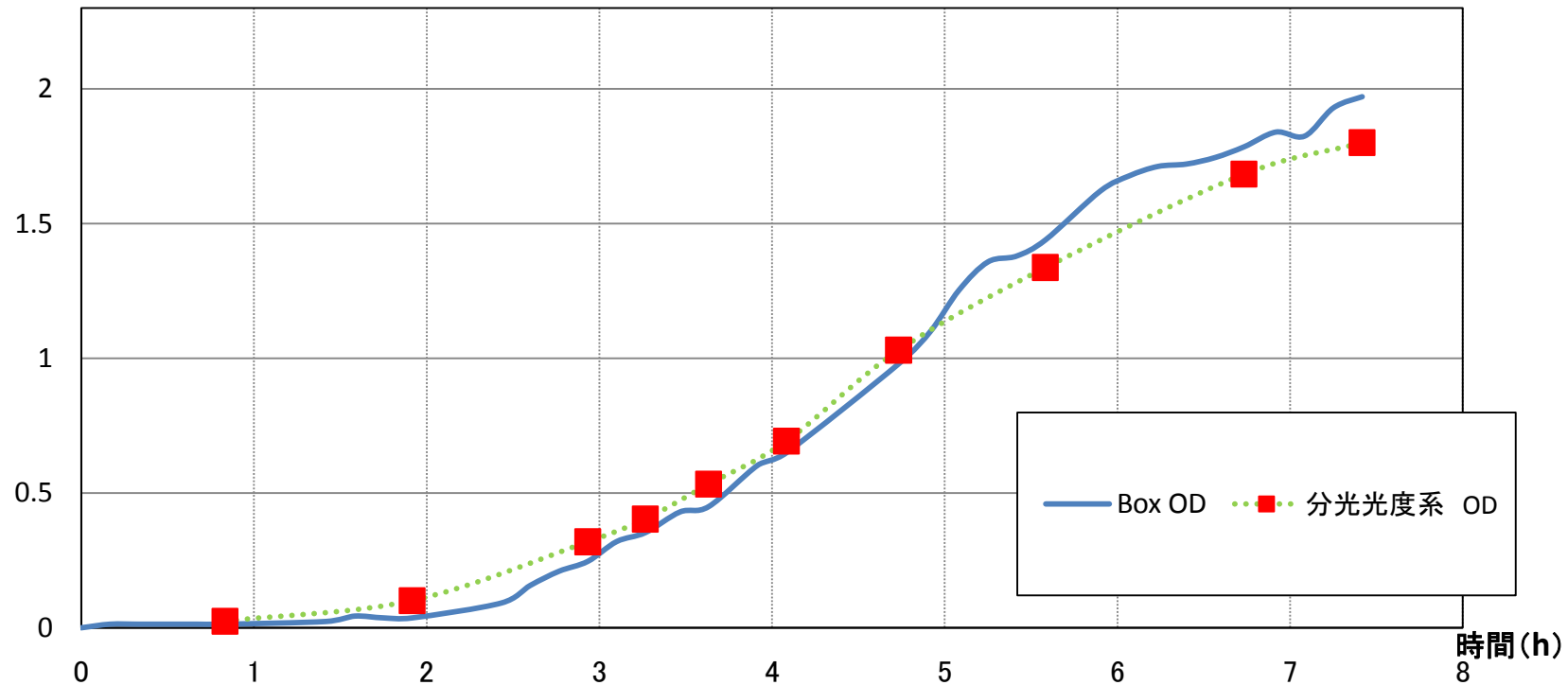


大腸菌を用いた検証(通常培養)

OD600



測定条件

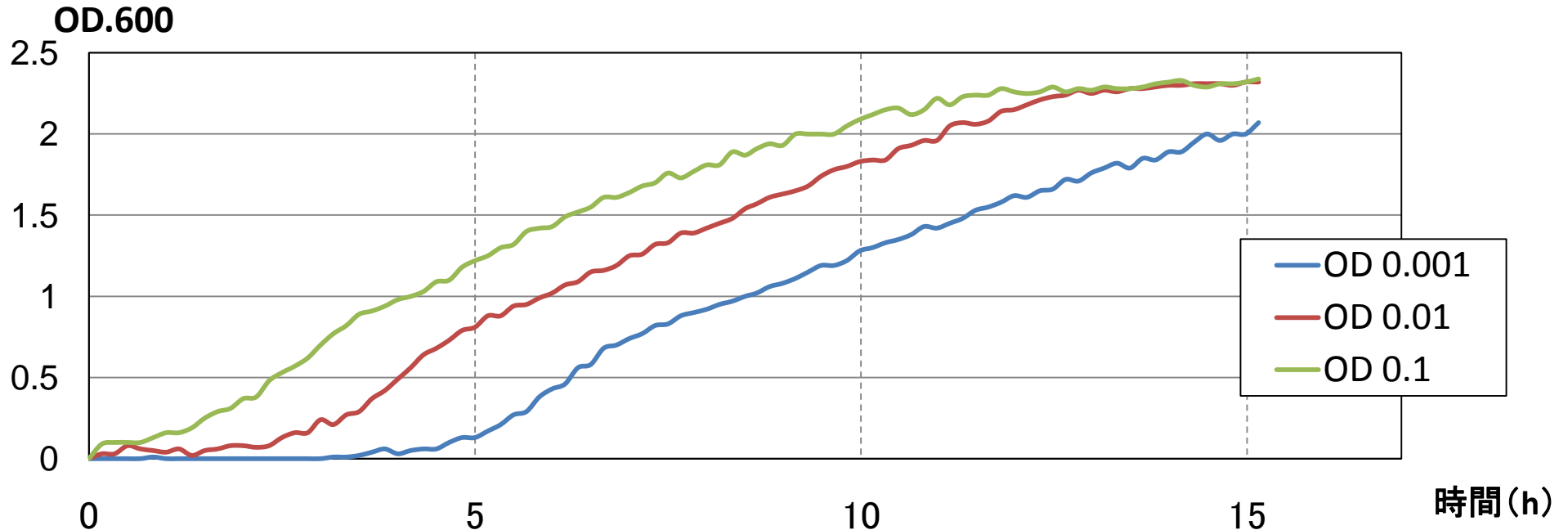
温度	植菌OD	フラスコ	振幅	回転数	インターバル	使用装置
37°C	0.01	300ml	25mm	180r/min	10min	BR-180LF

大腸菌を用いた検証(濃度変化)

植菌ODの違いが
生育曲線に表れる事
の実証



有用菌株の選択用途に使用
できることが実証されました。



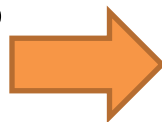
測定条件

温度	植菌OD	フラスコ	振幅	回転数	インターバル	使用装置
37°C	0.001~0.1	300ml	25mm	180r/min	10min	BR-180LF

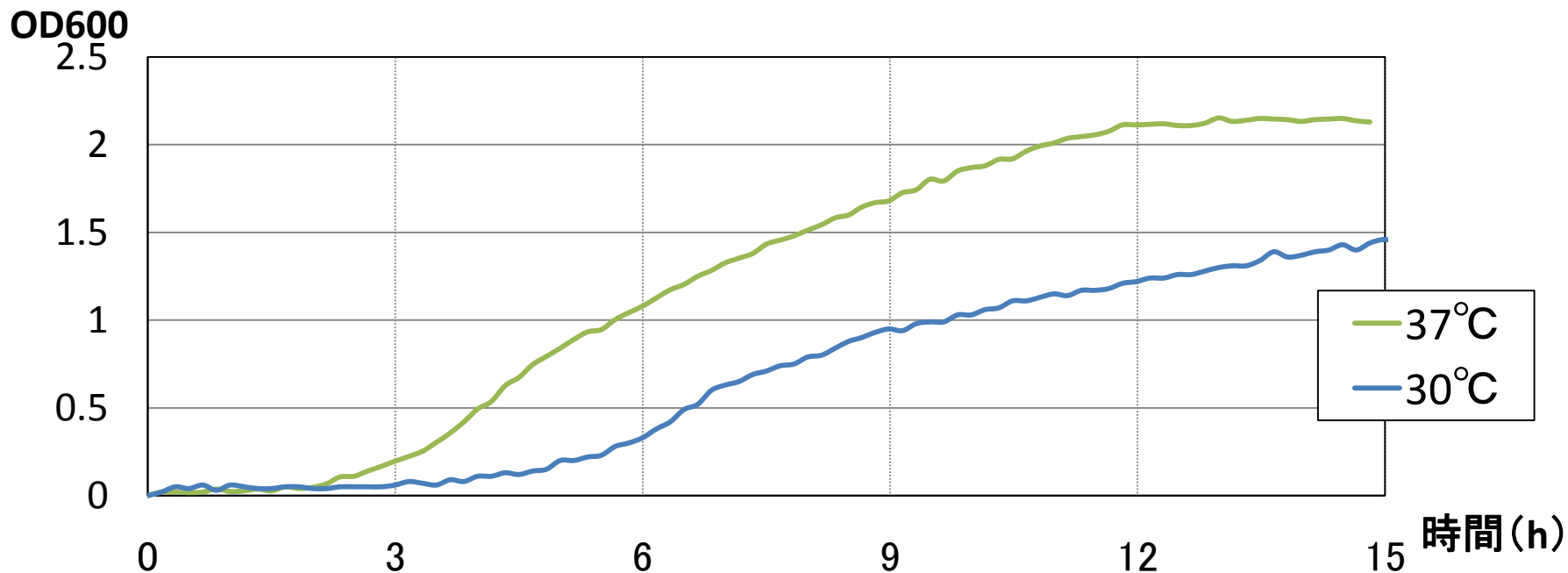
大腸菌（タンパク質の強制発現用途の検証）

具体例

タンパク質発現に用いるIPTG誘導は温度変化を伴うことがある。



温度を変えてインダクションを行うことで効率を上げることができる

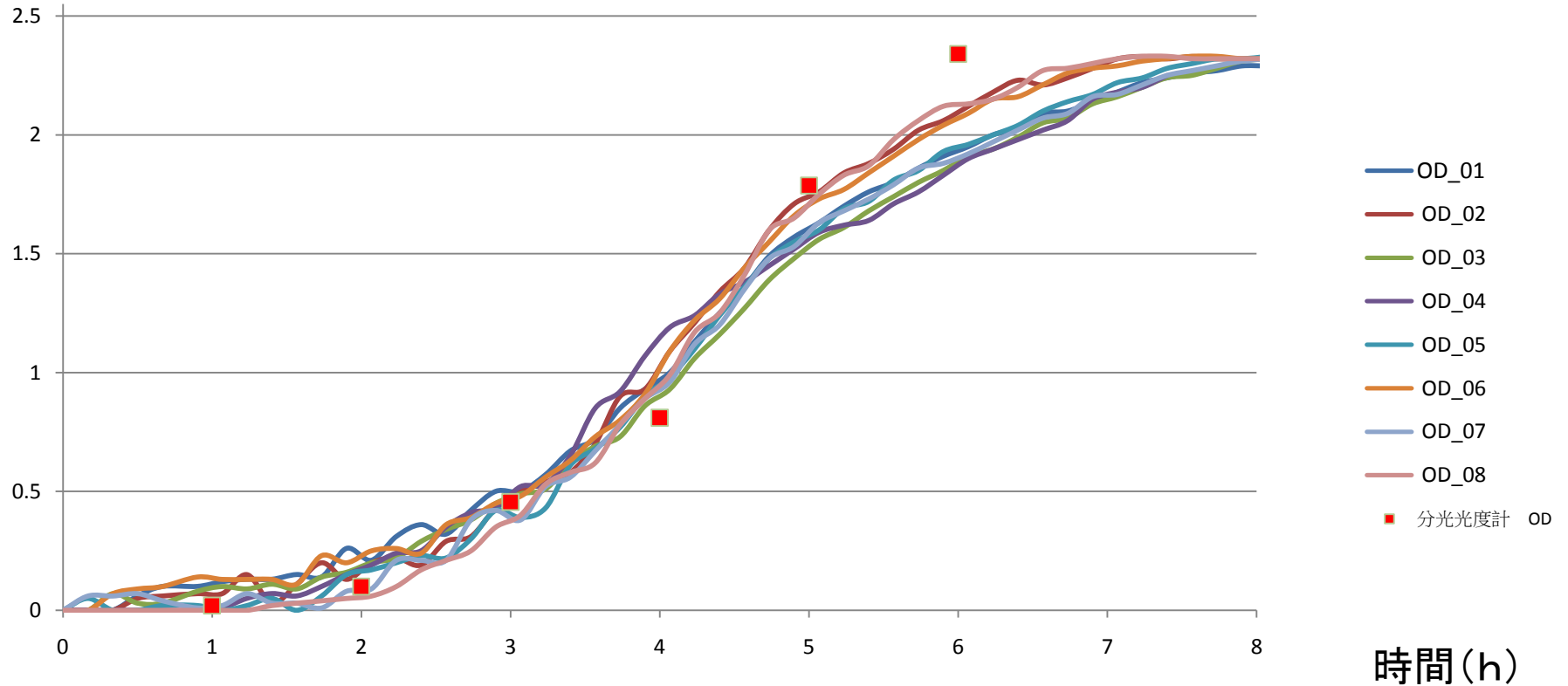


測定条件

温度	植菌OD	フラスコ	振幅	回転数	インターバル	使用装置
37 / 30°C	0.01	200/300ml	25mm	180r/min	10min	BR-180LF / G BR-200

大腸菌を用いた8ch同時測定の実証

OD.600



測定条件

温度	植菌OD	フラスコ	振幅	回転数	インターバル	使用装置
37°C	0.01	100ml	25mm	180r/min	10min	BR-180LF